慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戦後の経済的革新（三）
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.3 (1916. 3) ,p.299(27)- 309(37)
JaLC DOI	10.14991/001.19160301-0027
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160301-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る政府の遣方の失敗や、就中資本家と勞働者との間が疎隔して、直接自家に關係なき國家の問題に對して責任を感ずる念の薄かつた事や、種々の原因が輻湊してかゝる不幸なる結果を齎らしたのである。然し前述の如く勞働者も今や漸く時局の重大にして隨つて自己の地位責任の重きことを悟るに至つたのみならず、彼等の反對にも係はらず政府は遂に强制的に徵兵する事にしたのであるから、英國政府は當初所要の兵員を獲て、最後の勝利を博するの信念を益々固くしたことであらう。然し乍ら徵兵制度の價値は實施後の成績如何に依て決せらるゝ問題である。英國人が古來の傳說習慣に反したる一種の革命を行うのであるから、强制徵兵の實施は多少の困難に遭遇するものと覺悟せねばならぬ。我輩は我が同盟諸國最後の勝利を獲る爲に切に其の成功を祈るものである。（二月十三日稿了）

戰後の經濟的革新（三）

阿部秀助

五

將來に於ける獨墺兩國の經濟的接近が果して如何なる形式の下に、如何なる方法によりて齎らさる可きやに就きては、先づ此問題研究の前提として、一面、現時に於ける獨墺兩國の經濟的發達を考量すると共に、他面、以上兩國の現時に於ける經濟的關係を觀察するの必要あり、但、前者中、獨逸方面の經濟的發達に就きては、既に「ヘルフェリヒ」及「ハルムス」の著あるを以て論者は專ら墺國方面の經濟的發達に就きて考察を試みんと欲す。（註）

註　Dr. K. Helfferich, Germany's Economic Progress and National Wealth, 1888-1913.
B. Harms, Kaiser, Wilhelm II und die Triebkrifte des neudentschen Sozial-und Wirtschaftslebens.

最近十年間に於ける墺國の經濟的發達を見るに、之れが各方面に亘りて其膨脹の著しきものあり、例者、同國に於ける採炭額の增加に就きて見るに、千九百二年に三億三千一百八十萬瓩に過ぎざりしものが千九百十二年には四億二千一百七十萬瓩となり、其間約二十七「パーセント」の增加となれり、更に以上の採炭額を大別すれば黑炭は一億一千四十萬瓩より一億五千八百萬瓩に、褐炭は二億二千一百四十萬瓩より二億六千二百八十萬瓩となれり、又、生鐵の產額は以上の年度間に九百九十萬瓩より千七百六十萬瓩となりて約二倍の增加を來たし、綿花の消費額は同じく同年度間に於て六十萬「メーターツェントネル」より二百二十萬「メーターツェントネル」に增加し、各種工業品の輸出額は同じく同年度間に於て十億三千四百萬「クローネ」より十七億二千六百四十萬「クローネ」に增加せり、尙ほ同國に於ける工業其者の經營狀態に就きて觀察するに、鑛業の如き企業集中の結果として其數二十二より十六に減少せるものあるに不拘、一般に工場數は增加發達せり、即ち千九百三年に一萬二千百十一に過ぎざりしものが、千九百十二年には一萬六千九百二十九となれり、殊に其發達の著しき方面としては、金屬工業に於て千二百三十六より千六百三十四となり、機械器具の製作に於て七百五十五より千百六十四となり、木工業に於て千百五十二より千六百七十四となり、護謨及「セルロイド」に關する製造業に於て二十より四十九となり、織物工業に於て二千二百六十四より二千七百九十二に、衣類及毛皮品製造業方面にて三百九十六より七百七十三に、製紙業に於て六百三十五より八百二十に、食料品に關する製造業に於て千九百七十二より二千三百六十一に、化學工業に於て七百五十一より九百九十に、增加發達するに至れり、斯くの如く同國に於ける工業的發達の著しきものあると共に、一面、同國に於ける銀行資金の如きも、千九百二年に於て八億一千三百四十萬「クローネ」に過ぎざりしものが、千九百十一年には十二億五千三百萬「クローネ」に增加し、從つて之れが出資額も同年度間に於て三億七百萬「クローネ」より十一億三千四百七十萬「クローネ」に增加せり、但、同國に於ける株式會社の發達に就きては、獨、匈兩國に比して寧ろ劣れるやの觀あり、試みに以上三國に於ける株式會社の數及資本を比較するに左の如し。

年	墺太利資本額	墺太利利敗	匈牙利資本額	匈牙利獨逸利敗	墺太利資本額	墺太利利敗
	百萬「クルーネ」		百萬「クルーネ」		百萬「クルーネ」	
一八八六	三八六	一二七四、九	二三四、〇	二一四三	五六八八、一	七一
一八九六	四四九	一五七七、〇	六三一、五	三七一二	七九八六、八	二一九
一九〇六	六〇九	二五八七、一	一三二七、六	五〇五一	一六四〇九、〇	一八九五
一九一〇	七〇九	三三五四、四	一九七九、二	五二九六	一五三九三、五	二五八三
一九一二	七八〇	四一七七、一	二五四一、七	五四二一	二〇二二六、七（註）	二九九八

註　Dr. E. v. Philippovich, Ein Wirtchaft=Zollrsband zwissen Deutschland & Oesterreich=Ungarn s. 40.

蓋、墺國に於ける株式會社の發達を阻害せる源因は主として、課稅の過酷なる點にあり、即ち普通、純益の十「パーセント」に當る國稅以外に高率なる附加稅あり、更に千九百十四年以來は總て株式會社の重役は其配當の幾部分を徵せらるゝこと、なり、同國にては之れを Tantieneabgabe と稱せり、斯くの如き過重の負擔は實に同國に於ける株式會社成立難の訴えらるゝ所以なりとす、之れを要するに墺國が工業國として將來發達の氣運を造る上には、自から長所と共に短所の存するあり、先づ長所の方面より觀察するに、戰後、同國をして工業的活動をなさしむる爲めには、出來丈其生產費を節減せしめざる可からず、此點に於て「アルペン」方面の水力は極めて重要なる意義を有するものにして、專門家の說によれば一年間を通じて水深の變更、水力の大小等多少欠點の存せざるにあらざるなきも、然かも地方的に個々の水力を分割せずして專ら之れを集合して遠距離の大都會に給付するに於ては其能力は二百萬馬力以上に達すべしと云ふ、今、假りに一馬力を以て十人の勞力に相當するものとすれば、約二千萬人の勞働者を補充せしことゝなる、加ふるに同國は開戰前より工業敎育の進步せる國家として有名にして、殊に最近の計畫になる工藝手工學校の如きは、明かに同國に於ける之れが進步を示せるものなりとす、而して同國が此方面に於て重要視する點は單に學校內の敎育にあらずして、寧ろ專門敎育家をして出來丈け其附近の地方又たは工業地の勞働に從事せる職工或は小企業家等に工業上の新智識を普及せしむる爲め巡回講演をなさしむると共に、又、一方には無報酬にて彼等の諮問或は注文に應じ、時に圖案、模型等の展覽會を催し、其他勞働上の新方法、新器械、新原料等に就きても出來丈け懇篤に說明の勞をとるを常とせり、斯くて同國の工業が最近、著しく聲價を高めしことは之れを同國に於

ける硝子製造業及陶器業等に就きて見るを得可く、殊に是等商品の或者は戰役前既に北米合衆國方面に輸出せられしものなりとす、而して以上、述ぶるが如き長所と共に、同國工業の發達を阻害する要素も亦た少しとせず、其第一は墺國が獨逸に比して其消費能力の發達せざることなりとす、試みに兩國の富に就きて比較するに獨逸が約三千億麻を有せるに對して、墺匈兩國は僅かに千二百六十億「クローネ」にして之れを人口一人に就きて見る時は前者の四千百麻に對して、後者は僅かに其二分ノ一即ち二千四百七十「クローネ」に達せず、斯くの如く兩國の間には其富力に於て著しき相違の存すると共に、墺國は獨逸に比すれば地勢上交通の不便なる如きも、又、同國の工業を阻害する源因たり。

今試みに、最近に於ける墺匈對獨逸の輸出入關係を見るに左の如し。

	墺匈兩國より獨逸方面に對する輸出	墺匈兩國の獨逸方面よりの輸入	合計
	百萬麻	百萬麻	百萬麻
一九一〇	七五九	八二一	一五八〇
一九一一	七三九	九一七	一六五六
一九一二	八二九	一〇三五	一八六四

而して以上の表は明かに最近、獨逸の墺匈兩國方面に於ける經濟的發展の熾んなるを示すものにして、現に千九百十年より千九百十三年の間に於て約三十「パーセント」の增加となれり、之に反して墺匈兩國方面の努力が同年度間に於て僅十「パーセント」以上の增加を示さざることは、余輩を以て之れを見れば其間、主として二個の源因の存するが如し即ち第一の源因としては農產物の輸出額が漸次減少するに至りしことなりとす、例者、小麥の輸出額の如き千九百六年には十九萬五千五十六「メーター・ツェントネル」に達せしものが、千九百十三年には僅かに五百五十三「メーター・ツェントネル」となり、即ち前後、千九百六年より千九百十三年に至る迄、獨逸方面よりの輸入六十六萬九百九十七「メーター・ツェントネル」に對し、輸出は只だ僅かに二十六萬九千六十一「メーター・ツェントネル」に及びしに過ぎず、斯くの如きは平年の際、既に獨逸方面より輸入の存することを示すものにして、現に千九百十二年に三萬三千三百六十二「メーター・ツェントネル」其翌年に一萬一千一百三十八

一九一三　八二七　一一〇四　一九三一（註）

註　E. Pályi; Deutschland und Ungarn. s. 62

「メーターヅェントトネル」を輸入せり、其他、裸麥は千九百六年及其翌年に於ける獨逸其者の不作の場合に於て多少輸出額の增加を見しのみにして他は漸次減少し、大麥の如きも穀物關稅の影響を受けて約半額に減少し、又家畜の輸出高の如きも千九百十二年には六千二百四十頭其價格三百萬「クローネ」に減少せり、斯くの如く穀類及家畜輸出額の減少は大麥の場合の如き穀物關稅の影響は別として、主として墺國方面に於ける人々の增加と同國工業の發達より來りし購賣力の增加とが農產物及肉類消費額を增加せしめ、而して消費額の增加は以上、兩種の價格を騰貴せしむるに至り、此方面より國外輸出の傾向を制限するに至りしものなりとす、更に第二の源因は獨逸工業の能動的地位にして、試みに其主要なる部分に就きて觀察するに、先づ織物類に就きて獨逸對墺匈兩國の輸出入關係を見るに左の如し、但、千九百十二年現在高とす、以下の表又たこれに同じ。

墺匈より獨逸に對する輸出

	百萬磅
綿織物	二、五
毛織物	三、〇

墺匈方面に獨逸よりの輸入

	百萬磅
綿織物	一七、八〇
毛織物	一五、八九
麻系類	一〇、〇
麻織物	一、五
絹織物	三、三
衣類及帽子類	六、八
合計	二七、一〇

以上の方面に於て獨逸方面よりの輸出は墺匈兩國方面よりの輸出に比して三千五百三十萬磅多く、次ぎに製革品及護謨類に於て兩者の取引は左の如し。

墺匈方面より獨逸への輸出

	百萬磅
革類	一七、八
製革品及手袋類	五、九
護謨製品	一、七
合計	二五、四

墺匈方面へ獨逸よりの輸入

	百萬磅
	四三、〇
	一九、二一
	一二、八
	七五、〇

（表二）

即ち此方面に於て獨逸の墺匈を凌駕すること四千九百九十九萬磅、次ぎに木細工類に於て墺匈方面よりの輸出千二百二十萬磅に對し獨逸方面よりの輸入は二千三萬磅、陶器類にては前者の二百二十萬磅に對し後者は七百八十二萬磅、硝子類にては前者の九十二萬磅に對し後者は六百十二萬磅、彫石類にて前者の二百五十

萬麻に對し後者は七百七十萬麻、次ぎに紙類及紙製品にては前者の五百四十萬麻に對し後者は二千四百四十萬麻、更に鐵製品及諸器械の部に於て兩者の取引は左の如し。

墺匈方面より獨逸への輸出	百萬麻	墺匈方面へ獨逸よりの輸入	百萬麻
鐵及鐵製品	八、九	鐵材料による半製品	三六、八五
金屬製品	二〇、〇	鐵製品	四二、一二
諸器械其他	五、八	金屬品	一五、五四
		諸器械其他	一二四、四五
合計	三四、七		二一八、九六

（表三）

此方面に於て墺匈の獨に及ばざること約一億八千三百二十六萬麻、其他樂器類の輸出百八十萬麻に對し、獨逸方面よりの樂器及時計の輸入は二千七百七十萬麻、又、染料、化學工業品、藥劑、香水等の輸出は二千五百萬麻に對し、獨逸方面よりの輸入は化學工業品のみを以てするも三千四百五十五萬麻の多きに達し、其他、染料、藥品及香水は合して二千三百萬麻、尙ほ他に墺匈方面より輸出を見ざるものにして獨逸方面より齎らさるゝ貴金屬製品約二千五百萬麻あり、之れを要するに以上、兩者の取引關係に於て獨逸の墺匈を凌駕すること約四億一千七百五十萬麻、而して千九百十三年に於ける獨逸の對外的取引の總額は約二百十億麻、其中、墺匈兩國との取引は約二十億麻なるを以て全取引の十「パーセント」となり、又墺匈兩國の千九百十二年に於ける對外的總取引は六十二億五千萬「クローネ」にして獨逸との取引は約二十五億麻即ち之れが全取引額の約四十「パーセント」に相當せり、以て此問題の戰後の墺國にとりて極めて重要なる意義を有することを知るを得可し。

表一、二、三 — Dr. E. v. Philippovich, Ein Wirtschafts-und Zollverband zwissen Deutschland und Oesterreich-Ungarn. s. 50.